

県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある

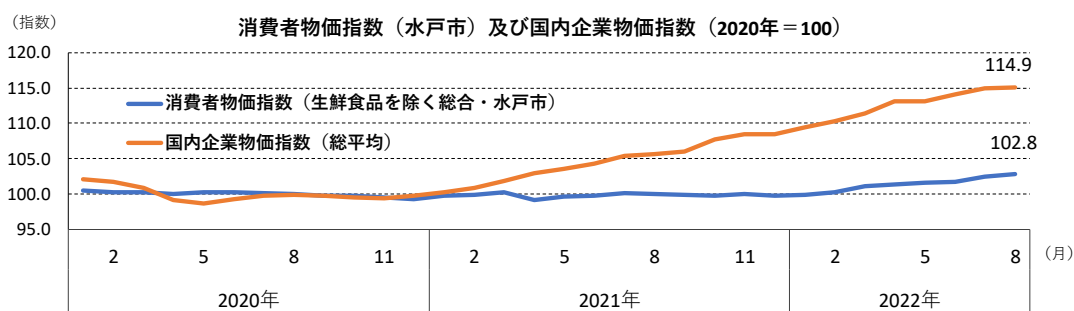
<ポイント>

- 1.生産……7月の鉱工業生産指数（2015年＝100、季節調整値）は99.0、前月比0.5%増と3か月連続で上昇した。
- 2.民間設備投資…7月の建築物着工床面積（民間非居住用）は213千㎡、前年同月比125.0%増と2か月連続で前年水準を上回った。
- 3.住宅投資……7月の新設住宅着工戸数は1,498戸、前年同月比6.3%減と4か月連続で前年水準を下回った。
- 4.公共投資……8月の公共工事請負金額は369億93百万円、前年同月比12.9%増と2か月振りに前年水準を上回った。
- 5.個人消費……7月の百貨店・スーパー販売額（全店）は前年同月比2.0%増と2か月振りに前年水準を上回った。8月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は5,848台、同12.2%減と14か月連続で前年水準を下回った。
- 6.雇用情勢……7月の有効求人倍率（季節調整値）は1.51倍と、前月と同じであった。

<概況>

県内の生産活動は、供給制約の影響などから一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる。設備投資は当社の「茨城県内主要企業の経営動向調査（22年7-9月期・速報値）」（以下、企業調査）等からは持ち直しつつある。住宅投資は、着工戸数が4か月連続で前年割れするなど弱含んでいる。公共投資は、公共工事請負金額に回復の兆しがみられることから、持ち直しつつある。個人消費は、新型コロナの影響が残存するものの、総じてみれば持ち直しつつある。雇用情勢は、労働需給の改善が続くなど持ち直している。以上を踏まえ、県内経済は「一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある」と基調判断を引き上げた。

県内の新型コロナ感染者数は徐々に減少に向きつつある。一方で、8月の国内企業物価指数は前年同月比9.0%上昇、消費者物価指数（生鮮食品を除く総合・水戸市）も同2.9%上昇と、物価高の状況が定着化しつつある。先行きの県内経済は、感染防止と経済活動の両立の行方に加え、物価高が企業や家計にもたらす影響、さらに海外経済の動向にも左右される展開が予想される。



出所：総務省・日本銀行

生産は一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる

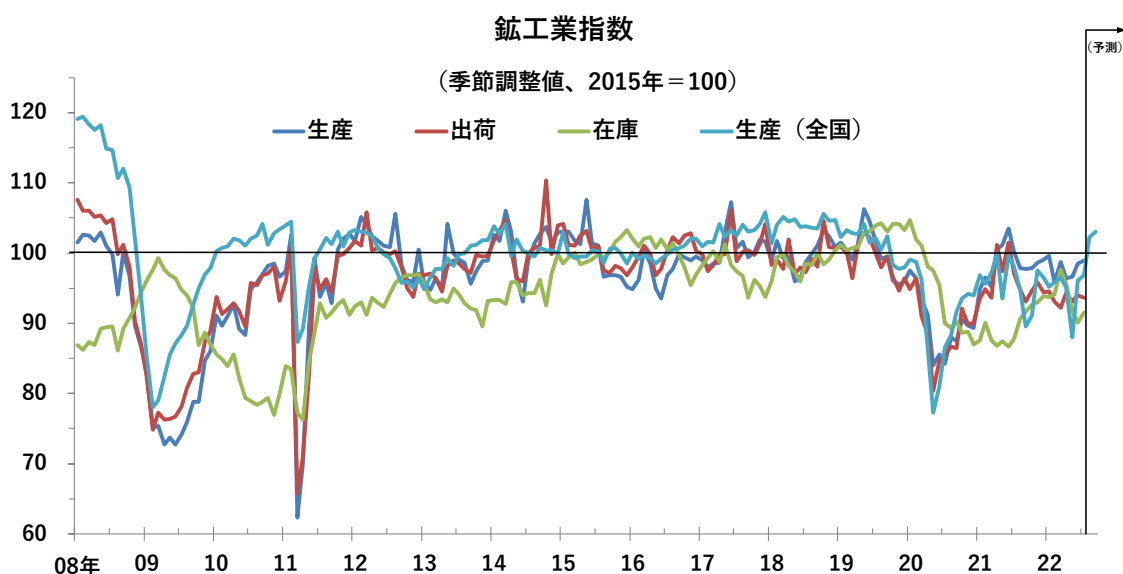
7月の鉱工業生産指数（2015年＝100、季節調整値※）は99.0、前月比0.5％増と、3か月連続で上昇した。業種別の内訳について寄与度の大きい順でみると、化学（前月比18.0％増）や汎用・業務用機械（同9.7％増）、電気機械（同4.3％増）等が全体の指数上昇にプラスに寄与した。一方、輸送機械（同26.9％減）や非鉄金属（同19.1％減）、食料品・たばこ（同1.7％減）等がマイナスに寄与した。

企業ヒアリング（9月）では、「半導体の供給不足、サプライチェーンの停滞に伴う部品不足の影響が続いており、生産は減少」（輸送機械）など、これまでと同様に供給制約の影響を指摘する声が聞かれた一方、「7-9月期は白物家電関連が大幅増産となり、残業等に対応」（プラスチック製品）など、生産活動の好調さを挙げる声も聞かれた。

以上を総合的に勘案し、生産活動は「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる」との判断を据え置いた。先行き（10-12月期）について、企業ヒアリング（9月）では「売上増加の予定」（鉄鋼）、「受注は従来比20～30％増の計画」（輸送機械）など、生産活動の持ち直しを見込む声が聞かれた。一方、資源・資材価格の上昇を背景に「仕入価格は更に上昇することが避けられない」（プラスチック製品）との声は多く、価格転嫁の動向次第にもよるが、製造業の景況感が下押しされる状況は当面続くと考えられる。

外需に係る貿易面についてみると、7月の茨城県内税関3支署の輸出額は1,638億円、前年同月比16.7％増と10か月連続で前年水準を上回った。鹿島は有機化合物の減少がマイナス寄与し同9.8％減、日立（日立港・常陸那珂港）は自動車、建設用・鉱山用機械等の増加が寄与し同33.7％増であった。なお、同輸入額は、資源高と円安の影響を背景に、鹿島や日立で石炭などが増加したことにより、同52.3％増であった。

※原数値から季節的要因を調整した数値



出所：経済産業省 * 月次ベース、全国の22年8、9月の生産指数は製造工業生産予測指数をもとに算出

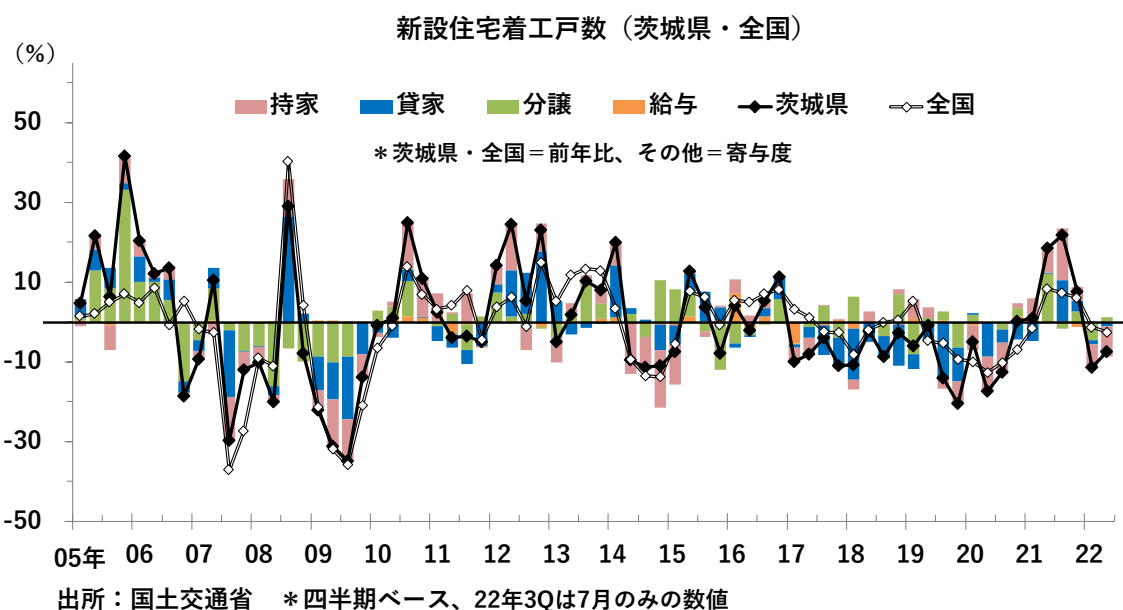
設備投資は持ち直しつつある、住宅投資は弱含み、公共投資は持ち直しつつある

7月の建築物着工床面積（民間非居住用）は213千㎡と、工場や店舗等の増加により前年同月比125.0%増（2.3倍）と2か月連続で前年水準を上回った。当社の企業調査（9月・速報値）では、22年4月-9月期の設備投資実施企業割合（件数ベース）は、全産業で59.5%、前期実績比3.8pt増であった（うち製造業62.9%、前期実績比5.8pt増。非製造業57.5%、同2.7pt増）。「法人企業景気予測調査（7-9月期調査）」によると、22年度の県内中小企業の設備投資額※は、大企業が前年度比12.3%増、中堅企業が同64.1%増の見通し。中小企業は同40.9%減の見通しながら、減少幅は前期（4-6月期）比15.1pt改善した。以上を勘案し、設備投資は「持ち直しつつある」と判断を引き上げた。

7月の新設住宅着工戸数は1,498戸、前年同月比6.3%減と4か月連続で前年水準を下回った。内訳をみると、持家は734戸、同12.5%減と8か月連続で減少、貸家は477戸、同1.1%増と3か月連続で増加、分譲は282戸（うちマンション0戸）、同0.4%減と3か月振りに減少した。住宅投資は、主力の持家の低迷が長期化していることに加え、着工総数も4か月連続で前年割れしたことから、「弱含みにある」と判断を据え置いた。先行きは、県南地域での住宅需要の底堅さを背景に持ち直しが期待されるものの、販売価格の上昇が住宅購入マインドに与える影響について注意が必要となっている。

8月の公共工事請負金額は369億93百万円、前年同月比12.9%増と2か月振りに前年水準を上回った。内訳をみると、県内工事に占めるウェイトの高い県が同9.3%増、市町村が同24.8%増であった。年度ベース（4-8月期）では前年同期比2.7%増であった。このように、公共工事請負金額が徐々に改善しつつあることから、公共投資は「持ち直しつつある」との判断を据え置いた。先行きも国や自治体の公共予算執行に伴い持ち直すとみられるが、建設業者の間では「（10-12月期も）工事資材の高騰が続く見通し」（9月）など、資材価格等の上昇に伴う採算悪化を懸念する声は依然として多い。

※除く土地購入額、含むソフトウェア投資額



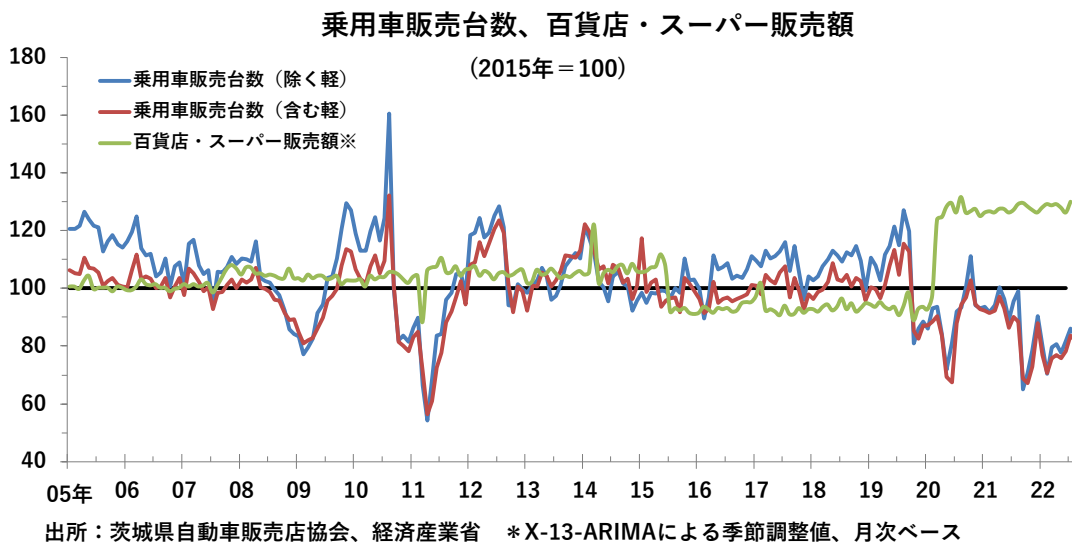
個人消費は持ち直しつつある

8月の乗用車販売台数（乗用車新規登録台数＋軽乗用販売台数）は5,848台、前年同月比12.2%減と14か月連続で前年水準を下回った。内訳は、普通乗用車が同12.8%減、小型乗用車が同16.9%減、軽乗用車は同7.5%減（2か月ぶりの減少）であった。販売台数の減少は長期化しており、回復の行方はメーカーにおける供給制約解消の動向次第となっている。

7月の百貨店・スーパー販売額は、全店ベースで前年同月比2.0%増、既存店ベースで同2.1%増と、ともに2か月振りに前年水準を上回った。7月の専門量販店販売額は、家電量販店が同10.2%減、ホームセンターは同0.8%減と、ともに2か月振りに前年水準を下回った。他方、ドラッグストアは同6.2%増と15か月連続で、コンビニエンスストアが同4.7%増と8か月連続で前年水準を上回った。

7月の家計消費支出（水戸市）は、前年同月比22.6%増と4か月連続で前年水準を上回った。8月の「景気ウォッチャー調査－北関東－」の家計動向関連DIは37.2、前月比0.5pt増と、小幅ながら2か月振りに上昇した（先行き判断DIは5.9ptの上昇）。企業ヒアリング（9月）では、7-9月期の新型コロナなどの影響に関して、「行動制限のない中でもレストラン、宴会・婚礼の受注が大幅に減少、宿泊は県民割の効果により好調に推移」（宿泊業）、「7月の来園者数は、前年比で約2倍、8月は同約4倍」（観光施設）、「サプライチェーンの混乱は一時期よりも正常化しており、輸出入品は動いている」（運輸・倉庫業）といった声が聞かれた。

このように、個人消費は、新型コロナ（オミクロン株BA.5等）の影響が残存するものの、国などの行動制約が実施されていないこともあり、総じてみれば底堅く推移している。以上を勘案し、個人消費は全体として「持ち直しつつある」との判断を据え置いた。先行きについては、新型コロナ感染拡大が徐々に落ち着くにつれ、持ち直しの動きが強まることが期待される。もっとも新型コロナのみならず、物価上昇などがもたらす消費マインドの影響についても注意が必要となっている。



雇用情勢は持ち直している

7月の雇用関連指標を季節調整値でみると、有効求人倍率は1.51倍と、前月と同じであった。新規求人倍率は2.35倍、前月比0.22pt減と2か月振りに低下した。就業地ベースでの有効求人倍率は1.67倍、前月比0.03pt増であった。

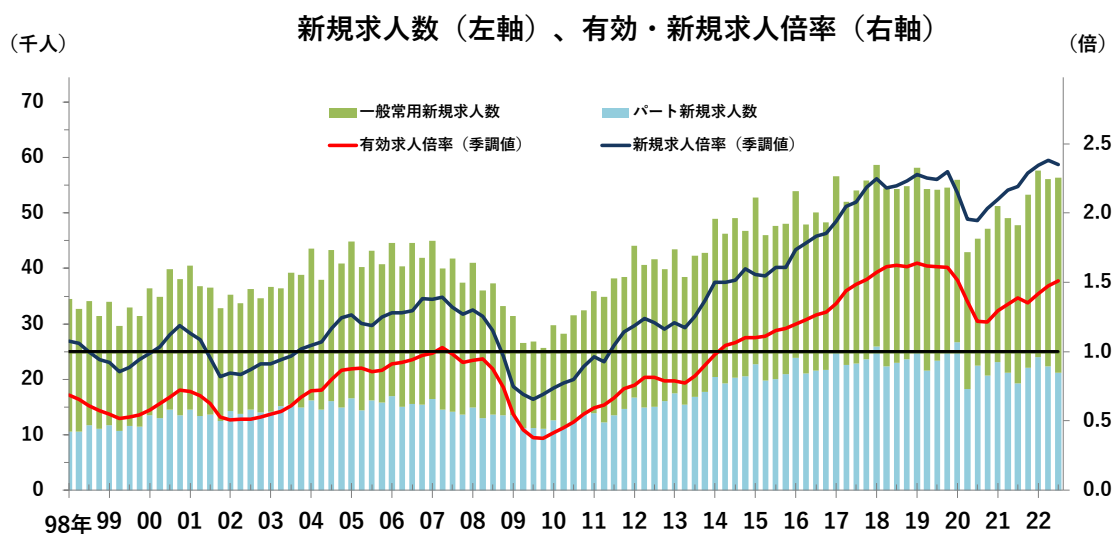
有効求人数について雇用形態別にみると、正社員は前年同月比10.3%増、パート・派遣・契約社員等は同10.7%増であった。

新規求人数は18,789人（前年同月比4.4%増）と、14か月連続で前年水準を上回った。一方、新規求職者数は7,164人（同5.0%減）と2か月連続で前年水準を下回った。

新規求人数（パートを除く）の内訳を産業別にみると、製造業（前年同月比14.3%増）、運輸・郵便業（同21.7%増）、卸売業・小売業（同18.2%増）などで、前年比2桁の増加となった。宿泊業・飲食サービス業は、同40.8%増と4か月連続で増加、一方、建設業は同11.4%減と2か月振りの減少となった。

失業者を示す雇用保険受給者数は8,272人、前年同月比11.5%減と14か月連続で前年水準を下回った。事業主都合離職者数は348人、前年同月比19.4%減と6か月連続で前年水準を下回った。

このように雇用情勢は、有効求人倍率が単月で横這いとなったものの、新規求人数や雇用保険受給者数の改善が続いていることから、「持ち直している」と判断を据え置いた。なお、企業ヒアリング（9月）では、人手不足の状況について「新卒は順調に採用できているが、即戦力となり得る中途採用に苦戦」（運輸・倉庫業）、「有資格者の確保が難しい」（介護・福祉業）、「（業界全体で採用募集への）応募が少ない」（建設業）などの声が聞かれた。経済活動が正常化に向かいつつある中、特に中小企業における人員や人材の確保は、今後より一層厳しさが増すものとみられる。



出所：厚生労働省 * 四半期ベース、22/3Qは7月のみの数値

茨城県経済動向 基調判断の推移

		基調判断
2019	1	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	2	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	3	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	4	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	5	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	6	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	7	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	8	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	9	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	10	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	11	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	12	県内経済は、持ち直しの動きが一服し、弱含んでいる
2020	1	県内経済は、持ち直しの動きが一服し、弱含んでいる
	2	県内経済は、持ち直しの動きが一服し、弱含んでいる
	3	県内経済は、弱含んでいる ー新型コロナウイルスの感染拡大により、先行き懸念・不透明感が続く見通し
	4	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により弱い動きとなっている ー先行きは更に悪化懸念
	5	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる ー製造業・非製造業とも7割の企業で悪影響を実感
	6	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる ー自社業況総合判断DIがリーマンショック後に次ぐ低い値に
	7	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる ー先行きは感染の第2波の悪影響が懸念
	8	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる ー個人消費は感入れしつづめるものの、生産の落ち込みが続く
	9	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいる ー方向感としては持ち直すも、生産などの低水準が続く
	10	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	11	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	12	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる
2021	1	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	2	県内経済は、新型コロナウイルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	3	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	4	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	5	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	6	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	7	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	8	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	9	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	10	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	11	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	12	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
2022	1	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、持ち直しの動きがみられる
	2	県内経済は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、持ち直しの動きがみられる
	3	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により、持ち直しの動きが一服している
	4	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により、持ち直しの動きが一服している
	5	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる
	6	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる
	7	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる
	8	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる
	9	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある

各指標の動向判断の推移

		生産	住宅	設備投資
2021	8	持ち直している	持ち直しつつある	弱い動きとなっている
	9	持ち直している	持ち直している	弱い動きとなっている
	10	持ち直している	持ち直している	弱い動きとなっている
	11	持ち直しの動きが一服している	持ち直している	弱い動きとなっている
	12	持ち直しの動きが一服している	持ち直している	弱い動きとなっている
2022	1	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	弱い動きとなっている
	2	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	弱い動きとなっている
	3	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	弱い動きとなっている
	4	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	横ばい圏内で推移している
	5	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	横ばい圏内で推移している
	6	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直している	横ばい圏内で推移している
	7	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	足もとでは弱含みにある	横ばい圏内で推移している
	8	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	弱含みにある	横ばい圏内で推移している
	9	一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動きがみられる	弱含みにある	持ち直しつつある

		公共投資	個人消費	雇用
2021	8	足もとでは弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
	9	足もとでは弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
	10	弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
	11	弱含みにある	弱含みにある	持ち直しつつある
	12	弱含みにある	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しつつある
2022	1	弱含みにある	持ち直しつつある	持ち直しつつある
	2	弱含みにある	持ち直しつつある 一足元では新型コロナの感染急拡大により弱含み	横ばい圏内で推移している
	3	弱含みにある	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏内で推移している
	4	弱含みにある	持ち直しの動きが一服している	横ばい圏内で推移している
	5	弱含みにある	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しつつある
	6	弱含みにある	持ち直しつつある	持ち直しつつある
	7	持ち直しつつある	持ち直しつつある	持ち直しつつある
	8	持ち直しつつある	持ち直しつつある	持ち直している
	9	持ち直しつつある	持ち直しつつある	持ち直している

「茨城県経済動向」は旧常陽地域研究センター（常陽アーク）が
1969年より継続してまいりました月例調査を、
2019年4月以降、常陽産業研究所が継承・実施しているものです

表紙の通番は常陽アーク時の通番を引き継いでおります

常陽産業研究所
地域研究部
地域研究センター

- ・本資料は、当社が独自に集計・入手しているデータを除き、2022年9月20日現在で公に利用可能な統計指標に基づき作成されています。
- ・公開されている統計指標は、過去に遡及して改訂されることがあります。
- ・統計指標を利用する際は、常に最新の公表資料を参照する必要があります。
- ・本資料は、統計指標とそれに基づく判断が正確であるよう最善を尽くしておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料に示した将来に関する全ての記述は、現時点での判断を示しているに過ぎません。